

クルーズサマリー

1. 航海情報

- 航海番号：MR18-01C
- 船舶名：みらい
- 航海名：平成 29 年度所内利用：所内利用（受託等）南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト：巨大地震発生域調査観測研究 2 海域津波履歴調査
- 首席研究者 [所属機関] 金松敏也 [海洋研究開発機構]
- 課題代表研究者 [所属機関] 小平秀一 [海洋研究開発機構]
- 航海期間：平成 30 年 1 月 21 日～平成 30 年 2 月 5 日
- 出港地～帰港地 清水/那覇
- 調査海域名：南西諸島
- 調査マップ (Figure 1)

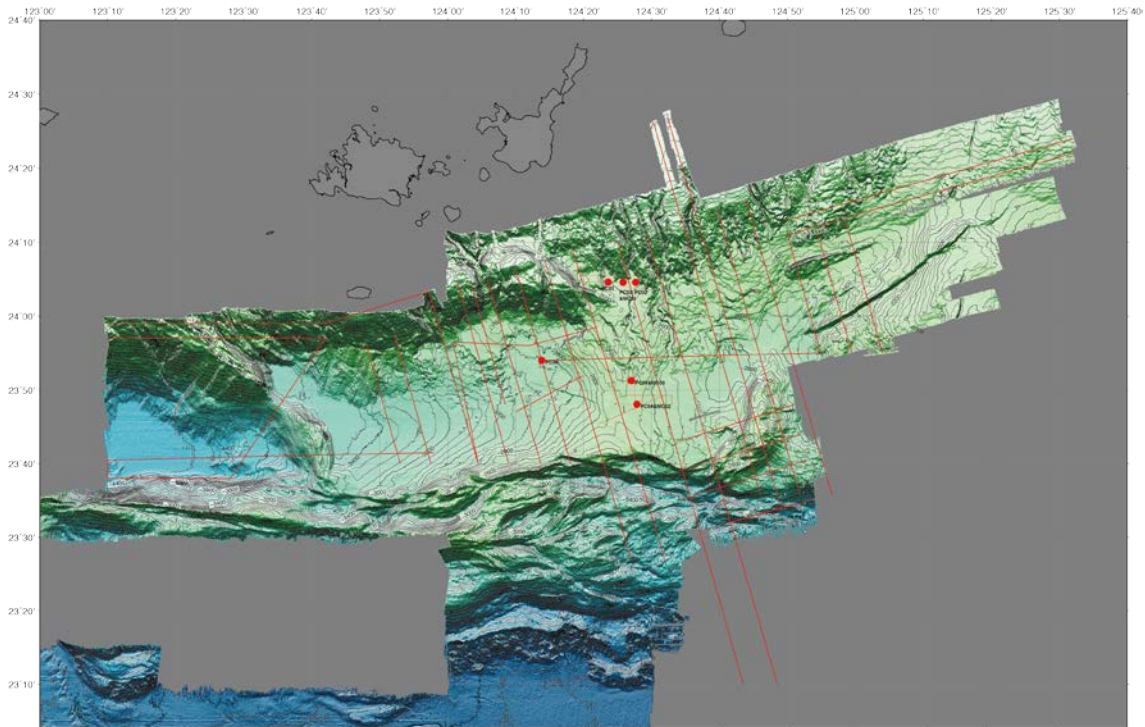


Figure 1: MR18-01C 調査海域：赤線：SBP および MBES 測線。赤丸：採泥実施点。地形図は YK15-01, KR15-18, KR16-E06, および MR18-C01 を統合したデータ図化した。

2. 実施概要

-目的・背景：受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」（平成25 年度～平成 32 年度）による本航海は、東海沖～南西諸島沖にかけ海底堆積物を分析し、津波・地震履歴を明らかにすることを目的としている。推定される津波地震震源域のごく近傍で、試料採取を行い、地震発生履歴や震源域の拡がり进行を明らかにし、陸域津波履歴調査と密接に連

携することにより、精度の高い津波・地震履歴復元を目指す。本年度調査は、平成28に引き続き南西諸島周辺の調査を実施した。

-実施項目：ピストンコアラー、マルチプルコアラーによる採泥、採泥点選定のためのサブボトムプロファイラ（以下SBP）による調査およびマルチビーム（以下MBES）による海底地形調査（Figure 1）。

-手法・観測機器：ピストンコアラー、マルチプルコアラー、MBES、SBP、MSCL

-観測結果・実施結果：10地点（表1、2）で採泥を実施した。採取した試料のMulti sensor core loggerによる測定、岩相記載、下船後研究のためのサブサンプリングを船上で実施した。SBPおよびMBESをFigure.1実施測線においておこなった。

表1. MR18-01C PCオペレーション

Date (UTC)	Core ID	Water depth (m)	Position		Core Length/Pipe		Winch wire Tension Max (ton)	K
			Latitude	Longitude	PC	PL		
20180127	PC01	2,190	24-04.5998N	124-23.6320E	0.00	0.05	3.2	-
20180127	PC02	2,239	24-04.5882N	124-27.6599E	2.56	0.09	3.3	0.27
20180128	PC03	2,229	24-04.5826N	124-25.8288E	2.55	0.08	3.3	0.28
20180128	PC04	2,533	23-48.0456N	124-27.8484E	4.71	0.00	4.0	0.23
20180130	PC05	2,531	23-51.2605N	124-27.0450E	3.53	0.20	3.4	0.09
20180203	PC06	2,848	23-54.0114N	124-13.8548E	5.06	0.19	3.8	0.07

Corer: Inner tube PC (480kg weight)

** "K value" is the strength barometer of the sea floor sediment

表2. MR18-01C MCオペレーション

Date (UTC)	Core ID	Water depth (m)	Position		Core Length (cm)		Winch wire Tension Max (ton)
			Latitude	Longitude	HND	Length	
20180202	MC01	2,229	24-04.5800N	124-25.8231E	HND2	26.5	3.2
					HND3	26.0	
					HND6	26.0	
					HND7	26.0	
20180202	MC02	2,532	23-48.0425N	124-27.8573E	HND2	19.5	3.3
					HND3	20.0	
					HND6	20.0	
					HND7	18.5	
20180202	MC03	2,529	23-51.2567N	124-27.0376E	HND2	19.5	3.3
					HND3	20.0	
					HND6	20.0	
					HND7	18.5	